



『長い間お疲れ様でした。そして、ありがとうございます！』

第18航空団広報局

40年以上に渡り嘉手納基地第18経理中隊に勤務した平安座芳子さんが、定年退職を迎え、平安座さんの長年の米国空軍への貢献を称え、今年4月に退職記念式典が執り行われました。（日本人従業員は、満60歳の誕生日以後の6月30日または12月31日のいずれか早い日を持って定年退職することになります。）

式典では、第18経理中隊司令官サン・ペイク中佐が平安座さんの長年の貢献に対し感謝の言葉を述べ、米国空軍からの感謝状、そして、米軍で退役する軍人に伝統的に贈られる「シャドーボックス」と呼ばれる米国旗や司令官のコインが埋め込まれた盾を贈りました。また、長年の勤務中の家族の協力に対して、式典に参加した平安座さんのご子息に対しても米空軍から感謝状が贈られました。

共に働いてきたたくさんの同僚や、平安座さんに仕事でお世話になったという他の部隊の米国民間人従業員や日本人従業員も平安座さんの第2の人生への旅立ちを祝うため駆けつけ、数々の記念品が贈られました。

平安座さんの直属の上司であるバムガードナー1曹は、「平安座さんはいわば経理中隊の遺産のような方です。この部隊に現在勤務している殆どの空軍兵や日本人従業員の人生よりも長く米国と日本、両国に尽くしてこられました。彼女のような人と共に働ける機会に恵まれたことを光栄に思います。」と述べました。

(写真全て、米空軍：ダネル・ケネディ二等軍曹撮影)



UNITED STATES OF AIR FORCE - KADENA AIR BASE, OKINAWA, JAPAN

現役高校生、デリースが教えてくれる 嘉手納基地内学校情報あれこれ

PART 3



嘉手納基地広報局インターン生
嘉手納ハイスクール2年 デリース・ダニエルズ著・編集

ランゲージ・フェスティバルin韓国

「안녕하세요！（アニョハセヨ！）」この言葉はリングアフェスに参加した生徒たちが先ず覚えなければならない言葉の一つでした。しかし、生徒たちは韓国語を学びに来たわけではありません。

米国国防省太平洋地域学校教育事務所主催のランゲージ・フェスティバルがソウル市内で4月16日から20日まで開催され、環太平洋米国空軍基地に所在する米国国防省管轄の高校12校、約100人の生徒と35人



(写真：チェルシー・ジョーンズ撮影)

教師が参加しました。つまり、日本、アラスカ、グアム、ハワイ、韓国の国々 地域に所在する米軍基地内の学校で外国語を学ぶ生徒たちが集まりました。生徒たちはそれぞれの学校の授業で学んでいる日本語、スペイン語、中国語、フランス語、そして英語の技能と知識を生かすために集まりました。参加したほとんどの生徒たちは2年から3年間それぞれ外国語を学んでいますが、このフェスティバルに参加するには、ある程度の日常会話ができることが条件となっています。

生徒達は韓国滞在中、英語以外のターゲット外国語*を話し、同じ外国語を学習している者同士、その外国語でどうコミュニケーションをとれるかということもこの研修会に参加する利点となっています。午前中、生徒たちは、滞在しているホテルの中にある会議室で朝の授業や発表のための準備を行い、午後は様々なイベントに参加しました。ホテルはオリンピックパークという公園内にあり、生徒たちは公園の中を自由に散歩したり、公園内のスターバックスやファミリーマート、ロッテリアなどに買い物に行きましたが、生徒たちだけでオリンピックパーク外への外出は禁止されていました。ただし、水曜日の午後だけ、先生の付き添いでソウル市内への外出が許可されました。

このイベントの目的は、生徒たちがこれまで学んできた外国語を話すこと、また、その言語を持つ国の文化や歴史を学び、最終的にその言語を使いプレゼンテーションを行うことでした。日本語を学んでいる生徒たちは桃太郎、花咲かじいさんや、お化け屋敷などの日本文化を劇や短い映画にして発表しました。また、スペイン語、中国語、英語を学んでいる生徒たちはそれぞれの国の昔話や昔から伝わる伝説などを発表しました。

*学習中の第2外国語。
ターゲット外国語とは、その生徒が学校で学んでいる外国語のこと。



(写真：チェルシー・ジョーンズ撮影)



(写真：ライオン・クラフト撮影)



米軍基地内と日本の高校の授業について比べてみます。私の通うカデナハイスクールと日本の高校の間では授業の受け方に大きな違いがあります。カデナハイスクールでは、生徒たちは自分が一番関心を持っている授業を選択し、自由に自分の時間割を組み立てることができ、成績だけではなく取得単位数が卒業に大きく関わってきます。

1年間の授業は前期 後期の2学期にわかれており、1年間授業を取ると1単位、前期または後期のみ授業を取ると0.5単位となります。例えば、英語のクラスは4単位必要なので、4年間継続して取らなければなりません。日本の学校と似ているところは、学年ごとに授業内容のレベルが高くなります。また、体育の授業の必須取得単位は1.5単位ですので3学期分の授業を取らなければなりません。4年間8学期の在籍期間中に、間をおいて授業を受けることができます。たとえば1年生の前期半年だけ体育の授業を受け、次は2年生の後半に取るということも可能です。

卒業に必要なクラス及び取得単位

- 英語—4年間 (4単位)
- 社会、歴史—3年間 (3単位)
- 数学—3年間 (3単位)
- 科学—3年間 (3単位)
- 外国語—2年間 (2単位)
- 芸術—1年間 (1単位)
- 保健—半年 (0.5単位)
- 体育—1.5年間 (1.5単位)
- 専門的な技術の研究—2年間 (2単位)



(写真全て、チェルシー・ジョーンズ撮影)



芸術クラスは、全部で24科目あり、音楽や美術などを学びます。その他、外国語の授業では、フランス語、日本語、スペイン語、そして中国語の4ヶ国語が選択できます。外国語の授業は1から6のレベルに分かれており、レベル6は大学生レベルとなっています。日本の高校では数学、社会、歴史などは必須科目と聞いていますが、カデナハイスクールでは、生徒たちが選べる選択科目となっています。また、社会に出たときに必要な専門的な技術を習得するための研究科目もあります。その一つビジネスクラスでは、マーケティング、エコノミー、国際ビジネスといった分野の学習ができます。コンピュータークラスでは、ウェブ製作や写真技術などのIT技術を学べるクラスが39科目もあります。

See you next!

地元への寄付活動

第18航空団広報局

4月27日、嘉手納基地内で勤務する軍人から集められた生活日用品が、沖縄市にある沖縄市立母子生活支援施設「レインボーハイツ」に寄付されました。ブレット・バートンフィッシャー上等兵が代表で同施設を訪問し、同施設の嘉手納幸枝所長に手渡しました。トイレットペーパー、ペーパータオル、シャンプー、リンス、石鹸などの生活必需品が寄付されました。「沖縄に勤務する間、何か役に立てるよう地元のために手助けをしたい」という思いから、バートン・フィッシャー上等兵は個人的に購入した物品もあわせて、施設への支援物品を届けました。



日米高校生合同チーム、
マンガコンテストで優勝！



(写真：米軍米国防領事館 南風盛綾提供)

5月12日、在沖米国防領事館主催の第5回マンガコンテストが、キャンプ・フォスター内クバサキ高校で開催されました。県内8校、米軍基地内2校から高校生が参加しました。参加者は小グループにわかれ「日本から米国へ桜寄贈100周年記念」というテーマでポスターを合作し、競いました。英語や日本語を交えて、時には通訳の手助けもかりながら、協力して作品を仕上げていきました。このコンテストで、日米の友好を両国の国旗や桜を織り交ぜて見事に表現した、日米合同チーム（カデナハイスクール、宜野湾高校、首里東高校、読谷高校の生徒）が優勝し、喜びの記念写真となりました。

嘉手納基地内には、以前遺骨が納められていたお墓、御嶽、拝所、旧神社、石橋、井戸、戦跡などを含む115箇所の文化的・歴史的に大切な場所が点在しています。その中にある拝所に、2011年の一年間で17件の訪問があり、158人の地元の方々が参拝のために訪れました。代表的な拝所として、「あしびなー」、「上原ビジュル」、「森根ビジュル」、「国直（くになお）グスク」などがあり、地元住民が頻繁に御願を捧げています。これらの拝所は第18施設群の環境課により保護管理されています。

(写真全て、第18航空団広報局撮影)



嘉手納基地内の
うがんじゅ

ALS、地元の学童保育施設へ 将棋とオセロを贈る

第18航空団広報局



子供達は包装されているギフトを開けると、早速グループに分かれて将棋やオセロを楽しんでいました。航空兵リーダーシップスクールは、嘉手納基地の兵長や2等軍曹が5週間の研修を受ける教育機関です。その講習期間に学生となった隊員達は資金造成活動を行い、今回集まった資金で地元沖縄の子供達のために寄贈を行いました。

2012年4月23日、嘉手納基地のAirmen Leadership School（航空兵リーダーシップスクール）Cクラスに在籍する学生達より、北谷町にある学童保育施設、北園学園へ将棋とオセロが数セット寄贈されました。ALSの学生を代表し、ブランドン・メツツ2等軍曹が北園学園を訪問し、子供達へ将棋とオセロセットを手渡しました。



(写真提供：航空兵リーダーシップスクール)

Skoshi Kadena, published by 18th Wing Public Affairs, Kadena Air Base Kadena Web Site: <http://www.kadena.af.mil> E-mail: 18wg.pa@kadena.af.mil



Chief, 18th Wing Public Affairs Office: Major Christopher Anderson

Editors: Ms. Takako Fukuhara, Mr. Hideaki Sakihama, Ms. Keiko Toma, Ms. Sayaka Kawatake, Ms. Makiko Miyara and Ms. Derrice Daniels

Graphic Designer: Ms. Naoko Shimoji

The Skoshi Kadena is published monthly and is an authorized publication by 18th Wing Public Affairs in Kadena Air Base. Contents of the Skoshi Kadena are not necessarily the official views of or endorsed by the U.S. Government, the Department of Defense, or the Department of the Air Force. The editorial content is edited, prepared, and provided by the 18th Wing Public Affairs Office. All photographs are Air Force photographs unless otherwise indicated. Contents may not be reproduced, distributed, or translated without the prior written permission from the 18th Wing Public Affairs Office.

『スコシカデナ』は、嘉手納基地第18航空団広報局より毎月発行されている出版物です。編集内容は、第18航空団広報局により編集、準備、提供されています。掲載される内容は、米国政府、米国防省または米空軍の見解・承認を必ずしも反映するものではありません。第18航空団広報局の書面による事前許可なしに、掲載写真や記事の無断転載を禁止します。